

福井県における郷土史研究の動向 〔平成28年〕

福井県立図書館では、寄託資料である松平文庫の魅力を広く知ってもらおうと、松平文庫テーマ展を年数回行っている。その中の一つ「真田信繁はどのような最期を遂げたのか」展は、当館職員が読み解いた史料を基に、新史実として展示したもので大河ドラマの人気と相まって大きな反響を呼び、NHK全国ニュースにも取り上げられた。新史実については、「西尾宗次の生涯―真田信繁を討った「無名の武士」の実像―」（長野栄俊著・『若越郷土研究』第61巻1号）に詳しい。

次に平成28年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

■歴史・自治体史・地域史・史跡調査報告書

勝山市は江戸時代の勝山の歴史を紹介する本『ものがたり かつやまの歴史 中』を発行した。越前市教育委員会は『越前市史 資料編8』を刊行、越前和紙の産地である五箇地区に残る明治期以降の和紙関係文書を中心にまとめた。大野市教育委員会は小学生を対象に『結の故郷越前おおの歴史すごろく』を作成した。大野市歴史博物館の開館二十周年を記念して作られたもの。印牧邦雄氏は『あわらの歴史と文化』を出版した。四十年余りに編纂した『芦原町史』のジュニア版ともいえる1冊。南洋一郎氏は『一乗谷城の基礎的研究―中世山城の構造と変遷』を出版した。前編で県内の各城館の現状を、後編で南氏が今まで手がけた研究報告をまとめた労作。鹿内八千代氏は『ヲホト大王と越の古代』を出版。ヲホト（継体）はなぜ大王までのぼりつめることが出来たのかを論じたもの。

地域史も数多く出版された。福井市東郷公民館は4年かけて『越前東郷名所旧跡』をまとめた。福井市麻生津公民館は、地区の歴史や特色を44

枚の札に込め『麻生津ふるさとかるた』を完成させた。福井市清水西地区の公民館は同区の歴史や文化財などを紹介する『清水西地区の昔と今』を刊行した。福井新田塚郷土歴史研究会は『ふるさと歴史発掘第二巻』を発刊した。市民感覚で埋もれた歴史を掘り起こす。越前市しらやま振興会は10年かけて『ふるさと白山』をまとめた。コウノトリ放鳥などと合併以降の動きを収録している。山元撰氏らは『上吉野の記録 印内村の歴史』をまとめた。高尾察誠氏は『新田義貞公と時衆・称念寺』改訂版を発刊した。義貞の墓が、かつて同寺の末寺にあったのではないかとの仮説を示す。南越前町上別所区は『上別所集落史すさのおの里』を発行した。「坂井町古文書の会」は昨年に引き続き江戸時代の三国の豪商内田家に関する『内田璞（すなお）家文書 家法録』を刊行、豪商の暮らしぶりをがうかがわせる。三浦三博氏は郷土誌『滝谷村は綿々と今も』を発行した。江戸から昭和時代を中心に坂井市三国町滝谷の歴史や暮らしなどをまとめた。

主な発掘報告書には、『鷲塚遺跡』『杉谷遺跡』『小尉遺跡』（福井県埋蔵文化財調査センター）、『福井城跡19』『今市遺跡2』（福井市教育委員会）、『荒土町松田遺跡』（勝山市教育委員会）、『兜山北古墳・石田中遺跡』『今北山古墳群』（鯖江市教育委員会）『興道寺廃寺発掘調査報告書』（美浜町教育委員会）などがある。

■目録・人物・ガイドブック

みくに龍翔館は『内田璞家文書目録』を刊行。江戸時代後期から明治前期にかけて三国湊を代表する豪商内田家から寄託された文書を調査したものの。

福井県文書館は『福井藩士履歴4』を刊行。巻末に角鹿尚計氏による解説が寄せられた。福井県教育委員会は子どもたちに地域の魅力を伝え

ようと『ふるさと福井の先人100人』を作成した。福井県立こども歴史文化館は泰澄伝説をもとに紙芝居『泰澄ものがたり〜白山を開く〜』を刊行した。木下聡氏の編著で『若狭武田氏』（戎光祥出版）が出版、若狭武田氏とその前身である安芸武田氏についての13本の論考を収録する。瀧井一博氏は『渡邊洪基』（ミネルヴァ書房）を出版、旧武生市出身で帝国大学初代学長を務めた渡邊洪基に新たな光を当てた一冊。吉川博和氏は、中日新聞と日刊県民福井の長期連載をまとめて『ふくい湊町ブルース』として出版した。県内の個性的な港町の歴史や文化について37話を収録する。

福井県は「ZEN（禅）」をコンセプトとした海外からの誘客活動の一環として、英語の高級パンフレット『ZEN, Alive. Fukui』を作製した。宮本数男氏は『ふるさと福井の山』を刊行。初心者から上級者向けの県内の200山をまとめた。

■政治・経済・各分野団体史

南保勝氏は『福井地域学 地方創生に向けて』（晃洋書房）を出版した。歴史・産業特性、県民生活など様々な面から分析整理し、福井の誇りを解き明かす一冊。酒井哲夫氏は『近くて近い国へ』を発刊。中国との草の根交流に長年携わってきた氏が福井の日中友好についてまとめたもの。各分野団体史では、県立武生東高等学校『福井県立』武生東高等学校三十年史』、県立ろう学校『福井県立ろう学校百年史』、県立坂井農業高等学校の百年史『歴史を刻んで一世紀』、福井工業高等専門学校『福井工業高等専門学校50年史』、あわら市波松小学校『あわら市波松小学校休校記念誌』、あわら市吉崎小学校『あわら市吉崎小学校記念誌』、福井県立美術館ボランティアの会『20年のあゆみ』、かすみが丘学園『創立50周年記念誌』、福井いきいき会『福井いきいき会3年3か月の歩み』

などが刊行された。

■宗教・教育・民俗

関根達人氏らは『越前敦賀湊の中近世石造物』（弘前大学）を発行した。二回目となる今回は敦賀市内の中近世墓標（1877基）に関する成果報告書。道場研究会は『道場さんを訪ねて―越前浄土真宗御門徒を支えた―』を発行した。県内各地に残る百力所以上の「道場」の実態を九にかけて調べたもの。

福井県教育委員会は、子どもたちに日本語の美しさやリズムに親しみ、表現力を養ってもらおうと小中学生用に『古典音読・暗唱ノート』を作製した。牧井正人氏は『感じる力で人は、育つ』を刊行した。日本画家菱田春草が描いた屏風「落葉」の複製を使った百回を超える出前授業の奮闘記。子どもたちが想像力や表現力を発揮する姿を記録する。

御食国若狭おばま食文化館は『小浜市の伝統行事と食』を出版した。平成25年に小浜市が実施した「食と文化の基本調査」の結果をまとめた報告書。池田町は『池田町の文化資源レッドデータブック』を発行した。池田町という地域に限定して野生生物のレッドデータ手法を抛りどころに、文化のレッドデータを手繰ろうとした一冊。美浜町佐田伝統文化保存会は『緋き（ひもとき）』を発行した。神社の例大祭から納涼盆踊りまで、30の行事を豊富な写真で紹介する。松本孝三氏は『北陸の民俗伝承』（三弥井書店）の中で「若狭路の民間説話」と「民俗文化の中の西行―若狭・越前を中心に」をまとめた。須川建美氏は『健康と諸願成就を祈る庚申さん』をまとめた。県内で数多くまつられている「庚申」信仰について調査したもの。松村誠一氏は勝山左義長の歴史などをまとめた『平成「勝山左義長」備忘録』を出版した。

「福井民俗の会」は活動が停滞していた会の再建を図ろうと、7年ぶ

りに機関誌『えちぜんわかさ』を刊行した。

■自然

福井県は県内の野生動物植物の絶滅危険度を分析した『改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動物植物』を12年ぶりに発刊した。鯖江印刷協同組合は設立30周年を記念して『レッサーパンダ写真集』を作成した。白崎重雄氏は『福井県のスミレ』を発行した。40数年仕事のかたわら「スミレ」研究に携わった氏の集大成ともいえる一冊。飯田和質氏は越前町織田地区の3集落で見つけた草花や遺跡を紹介する本『山里の散歩道』を発刊した。笹木進氏は湿地に絡む言い伝えや昔の出来事などを紹介する『聞き書き中池見今昔』を発行した。

■工業・土木・建築・家政学

国京克巳建築設計工房は『本荘春日神社本殿修理工事報告書』をまとめた。本荘春日神社本殿は福井県指定有形文化財。小野一氏は『地方自治と脱原発 若狭湾の地域経済をめぐって』（社会評論社）をまとめた。河野徳吉氏は『奉書紙の判元・商人史―内田吉左衛門』を発刊。福井藩の懐を賄った豪商内田家の栄枯盛衰を中心にまとめた。

青木捨夫氏は『越廼・伝統の魚介さばき』の復刻版を出版した。基となったのは40年前に氏が執筆しガリ版刷で作ったもの。

■産業・芸術・文学

福井市教育委員会は『名勝養浩館（旧御泉水屋敷）庭園保存活用計画』および同概要版を作成した。全国北前船研究会は全国北前船セミナー開催30周年を記念して『北前船にかかる論考・考察集』をまとめた。大野市は新成人に向けて写真集『大野へかえろう』を作製した。日常

の何気ない大野の風景を切り取った百枚の写真集。越前市教育委員会は『文化財からみる越前市の歴史文化図鑑』を発行した。長谷光城氏は『長谷光城作品集2』を刊行、2011〜2016年までの作品を紹介する。足立直紀氏は『若狭路のみほとけ』（はがパレット）を出版した。若狭一円の仏像を巡る旅をイラストで綴ったもの。山崎貞子氏は『彫刻家 田嶋碩朗（たじませきろう）』（共同文化社）を出版。田嶋碩朗は北大クラーク像原型の作者。しあわせスポーツ協会は『障がい者スポーツクラブ・サークル』を作製した。県内全域を対象にした障がい者スポーツ団体の紹介冊子の発行は初めてとなる。

文学では、藤田宜永氏の小説『大雪物語』（講談社）が第51回吉川英治文学賞に、荒川洋治氏の詩集『北山十八間戸』が第8回鮎川信夫賞に選ばれた。

■歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。福井県文書館は「遺された言葉―最後に何を伝えたかったのか?―」「ふくい人はみた!異国 災害大事件」、福井県立歴史博物館は「城下町福井の町と人」「ふくいの婚礼」、福井県立若狭歴史博物館は「若狭のたからく知る・まもる・つなぐ」「若狭と丹後をつなぐもの」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は「一乗谷と越前焼」、福井県立美術館は「若佐又兵衛展」、福井市立郷土歴史博物館は「大坂の陣と福井藩」「福井の仏像」、敦賀市立博物館は特別展「大谷吉継と西軍の関ヶ原」をそれぞれ開催した。

以上、個人史、抜刷など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。